

令和元年度 自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立直方特別支援学校長 印

学校運営計画(4月)		評価(総合)	
学校運営方針	○幼児児童生徒の一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かい指導を行い、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する生きる力を育み、自立を目指すとともに、生活を豊かにする教育を行う。 ○安全・安心な環境の中で一人一人に必要な合理的配慮の充実を図るとともに、相互に相手を認め、尊重し合い、積極的に社会参加しようとする意欲を高める教育を行う。	B	
	年度重点目標		具体的目標
開校から4年が経過し、各障がい部門における課題の改善や教育部門間の共通理解が進んだ。今年度は新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、一人一人に応じた教育活動を一層推進し、積極的な情報発信と地域に開かれた学校づくりを強化する。	教育的ニーズに応じた「鍛えて、ほめる」指導の充実		学習指導要領の改訂のポイントを踏まえた教育課程の段階的な見直し 幼児児童生徒の障害特性を理解した授業改善 不登校児童生徒に対する更なる支援体制づくりと指導の充実
	危機管理体制の充実		災害に備えた防災計画の作成と安全・安心に係る緊急対応マニュアルの見直しとシミュレーションの充実 個人情報漏洩防止ルール等に則った学校管理システムの構築
	教職員の専門性の向上		新たな研修体制と研修内容の構築 各部門の実態に応じた授業研究等の実施 教職員の人権感覚の向上と人権教育の目標を踏まえた道徳教育の推進
	地域に開かれた学校づくり		地域に開かれた学校づくり
		特別支援教育等に関する相談・情報提供機能の強化	
	教職員の職場環境の改善・不祥事防止意識の向上	校務分掌(業務内容)の見直しと明確化及び教職員の業務量の軽減 勤務時間管理システム導入に伴う時間外勤務縮減の推進 不祥事防止研修の更なる充実	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
学校運営	部門や学部、分掌が組織的・合理的な運営を行うことができる体制を構築する。	学部、分掌のチーフや担当者を明確にするなど、働き方改革の視点から業務改善に取り組む。	B	B ・業務内容の精選や会議の内容・方法、会議時間のマネジメントに取り組むことで、業務の円滑な進捗を図る。 ・3部門9学部ある大規模校として、学校関係者評価委員会での助言を取入れ、効率的な学校運営に取り組む。
		共有フォルダを活用して、印刷及び配付物の縮減に取り組む。	A	
		各関係機関、学校評議員及び学校関係者評価委員との会議を設定し、学校運営に生かす。	B	
教育課程	年間指導計画及び個別の指導計画を整理・見直すことで、個に応じた指導の充実を図る。	年間指導計画と個別の指導計画の様式や運用等について見直しを行い、改善を図る。	B	B ・新様式での指導計画に基づいた指導の充実を図る。 ・教科等の目標や内容を踏まえた指導を行い、適切な教育課程の編成に努める。
		障がいの状態及び発達段階や特性等に応じた教育課程の編成を行うとともに、その評価・改善を図る。	B	
		各教育部門、学部、学年、学級ごとに連携を図りながら、指導内容・方法の改善を適宜行う。	B	
研修	よりよいカリキュラム・マネジメントの在り方を模索し、学校研究を推進していく。	学校教育目標を各部門・各学部に具現化し、教科領域等における身に付けさせたい力を明確にする。	B	B ・PCAの段階での協議をさらに充実させ、年間指導計画や単元計画の目標や身につけさせたい力をより具体的に表記していく。 ・次年度は2学期(グループによっては、1、2、3学期)の単元において単元シートを活用していく。 ・研修グループの実態に応じて、学習会や研修会の持ち方の工夫を行う。
		単元の計画を記入し評価するシートを作成し、2単元で活用することで年間指導計画の見直しを行う。	A	
		単元シート等のツールを活用し「いつ、だれが、どこで」ディスカッションするのか、流れを確立する。	B	
専門性向上	教職員の資質及び専門性の向上に資する研修の企画・実施及び研修体制の整備に努める。	職員研修に関して、「校内研修の観点」を更新するとともに、それを活用した研修体制を整備する。	B	B ・職員研修に関しては、回数・内容を見直し、「校内研修の観点」の活用した研修内容を構築する体制を整備すること。 ・他分掌と連携しながら、部門別に実践的な内容の研修を企画・運営し、専門性の向上を図る。
		授業づくり研修会の全3回を見通して、授業づくりを基盤とした研修を企画・実施する。	C	
		各研修等の事後アンケートを実施、その評価を踏まえて次年度の計画に生かす。	A	
人権・同和教育	幼児児童生徒の自尊感情や障がい認識を育むとともに、教職員研修の充実及び関係諸機関との積極的な連携を図る。	人権に関わる聞き取りを行い、その結果を基に指導内容や指導方法、研修内容等の改善を図る。	B	B ・教職員の人権意識を向上させる効果的な取組や研修会を実施していく。 ・幼児児童生徒の自尊感情を高め、障がい認識を育成する人権学習を全校的に実施し、積極的に校外に発信していく。
		人権教育の取組に関する記録を集約し、成果と課題を明らかにし、次年度の改善に生かしていく。	A	
		関係諸機関との連携を深め、本校の取組を積極的に地域や保護者にも発信していく。	B	
情報教育	情報教育の推進を図るとともに、個人情報の漏えい防止、教員のモラル向上を図る。	校内個人情報管理マニュアルに沿って適切な個人情報の管理を行い、漏えいを防ぐ。	B	B ・今年度はセキュリティ面の研修を主に行ったが、来年度はアンケートの結果に基づき、職員のニーズに応じたICT研修を行い、本校のICT活用を充実させるようにする。 ・HPをさらに充実させるために更新頻度、内容を充実させる。
		H Pの内容について精選と充実を図るなど、本校HPを適切に運営し、本校教育活動を広く発信する。	B	
		アンケートの結果を元に、情報教育についての研修会を計画・実施し、教員の情報活用能力の向上を図る。	C	
庶務	学校と保護者・関係諸機関との連携を深め、PTA活動や同窓会活動の充実を図るとともに、庶務部内のマニュアルの見直しを行う。	PTA役員との連携を密にし、PTA活動活性化の推進に努める。	A	A ・広報紙で使用する写真の選定を庶務部内で行うようにする。 ・次年度の幹事校に業務内容を引き継ぐ。また、今年度より協議の上、教職員互助会福祉事業の内容をボウリング大会から各学校による福祉事業に変更した。次年度どう運営していくか、さらに協議する必要がある。
		同窓会行事の充実・改善に努める。	A	
		互助会福祉事業の推進に努める。	A	
幼児児童生徒指導	全職員の共通理解のもとに、幼児児童生徒の心身の健康増進と安全確保に努め、充実した学校生活を送ることができるように取り組む。	幼児児童生徒の諸問題について、支援方法や情報を全職員で共通理解しながら取り組む。	B	B ・幼児児童生徒の新たな課題に対して適切に対応するとともに、問題行動等への未然防止に取り組む。 ・安心・安全な通学ができるように、関係機関との連携を強化する。
		次年度の児童生徒会の在り方について、各部門や学部と連携しながら、方向性を提案する。	A	
		幼児児童生徒が、安全で安心な通学ができるように関係機関と連携し、情報を共有する。	B	
保健・安全	幼児児童生徒が健康で安全かつ衛生的な生活を送るための、校内体制の整備に努める。	幼児児童生徒の健康に関する実態を把握し、健康指導の充実を図る。	A	A ・学習活動の多様性を踏まえた緊急シミュレーションの持ち方を模索し、実践していく。 ・性と健康に関する指導の年間計画を学校全体と部門学部毎に整理して提示し、計画的に進めていく。
		各部門毎に、緊急シミュレーションの充実を図るとともに、緊急時の原則を共有する。	B	
		教員、看護職員、保護者、指導医、主治医と連携して一人一人の医療的ケアの充実を図る。	A	
センター的機能	巡回相談、教育相談、通級による指導等の充実を図る。	各部門の専門性を生かし、相談依頼先のニーズに応じた巡回相談を実施する。	A	A ・相談支援先が自校の責任の下、相談を依頼し、相談後の実践に取り組むような働き掛けに努める。 ・巡回型「通級による指導」の流れを校内で協議し、ルール化の中でスムーズな運営を目指す。
		アセスメントの充実を図り、年齢や成長段階に応じた教育相談を実施する。	B	
		通級による指導担当者連絡協議会を開催し、在籍校と連携する。	A	
進路指導	自立と社会参加を意識した進路指導の推進	キャリア教育の視点に立った進路学習を推進する。	B	B ・本年までのやり方を見直して、保護者や先生方へ進路に関する情報を発信していく。
		関係機関と連携する。	B	
		ホームページ等による進路に関する情報を発信する。	C	
防災	日常の学校生活の中で、校内の保安全管理及び火災・地震、その他の予防に努め、異常異変に際し、幼児児童生徒の安全を保持し、状況に応じて、被害を最小限にとどめることを目的とする。	被害時に本校の幼児児童生徒を安全に保護者に引き渡す。	B	B ・防災マニュアルを学校全体に提案することはできたが、細かい部分については今後の課題となった。実際の災害を想定し、より実用的なものにしていきたい。そのためにも各部門や分掌との連携協力を進めていきたい。幼児児童生徒の避難や安全確保のための資料や準備について担任が把握する手立てを検討する必要がある。
		本校の幼児児童生徒の災害時の備蓄方法を確立する。	B	
		本校の幼児児童生徒が、安全で安心な避難ができるように、実態に応じた避難方法を確立する。	B	
寄宿舎	学校と連携し、舎生の安全と健康を第一に考え、舎生が安心して寄宿舎生活を送ることができるようにする。	学校と連携し、舎生の安全と健康を第一に考え、舎生が安心して寄宿舎生活を送ることができるようにする。	A	A ・寄宿舎の改修工事も無事終了し、来年度は通常の日課で指導を行うことができる。綿密な計画と連携をとって指導に当たる必要がある。特に寄宿舎児童生徒の食事や入浴におけるきめ細やかな配慮と対応が課題である。
		安全点検、授業確認、避難訓練を実施し、安全・安心な生活の充実を図る。	A	
		保護者と連携を図りながら、個々の課題に適切に対応する。	A	
事務	効率化を重視しながら、併せて本校幼児児童生徒の実態に合わせた予算の執行に努める。施設設備の充実を図る。工事における安全管理の徹底を図る。	経費の節減に努めながらも、幼児児童生徒の実態に応じた弾力的な予算執行を行う。	A	A ・慢性的な普通教室不足の解消に向けて、引き続き県への要望を継続する。 ・分権予算において、空調施設増による義務的経費の増が見込まれるので、より効率的・計画的な予算執行に努める。
		施設設備関係の要望を踏まえ、優先順位を付けながら対応する。	A	
		安全管理を行うため、工事業者との連絡・調整を確実にを行う。	A	